

第三期帯広市障害者計画（骨子）

令和元年8月19日
厚生委員会提出資料

1 計画の策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

障害のある人を取り巻く様々な社会環境の変化等を踏まえ、障害のある人もない人も誰もが互いに個性を尊重し認め合う共生社会の実現をめざし策定します。

(2) 計画の位置づけ

障害者福祉に関する分野計画として第七期帯広市総合計画に即して策定するほか、障害者基本法に基づき、障害のある人に関する施策を推進するための基本的な計画として、また、帯広市地域福祉計画等との整合性を図り、策定します。

(3) 計画の期間

2020（令和2）年度から2023（令和5）年度までの4年間とします。

2 障害のある人の状況

(1) 障害のある人について

本計画における障害のある人とは、身体障害、知的障害、精神障害だけではなく、難病患者、発達障害、外見からは分かりにくい心身の機能に障害のある人など日常生活や社会生活で支援を必要とするすべての人を対象とします。

(2) 人口の推移と障害のある人の状況

本市における身体障害、知的障害、精神障害のある人は平成30年度末で13,255人となっています。身体障害のある人の人数は減少傾向にある一方、知的障害のある人、精神障害のある人の人数が増加傾向にあり、障害のある人全体の人数は増加しています。

3 これまでの取組みと課題

(1) 障害者理解の促進

- 権利擁護に向けた障害者虐待防止センターの設置や、交流の場としての市民活動プラザ六中の供用の開始など、障害や障害のある人に対する理解促進の取組みをすすめてきました。
- 啓発事業や交流の機会等は増えていますが、差別や偏見を感じていることが多く、理解が十分にすすんでいない現状があります。外見からは分かりにくい障害のある人が増えてきている中で、障害の特性や必要とされる配慮などにつながるような理解の促進が必要です。

(2) 生活支援の充実

- 基幹相談支援センター等による相談支援体制づくりなど、地域生活を送るための取組みをすすめてきました。
- サービス提供体制が整い、入院や施設からの地域生活移行がすすんできている一方で、多様なニーズへ対応するため、サービスの質の向上や人材育成、本人の意思決定の支援が必要です。また、今後増加が予想される障害のある人や家族の高齢化等への対応や、医療的ケアを必要とする人への支援体制が求められています。

(3) 自立した地域生活への支援の充実

- 障害者就労施設等からの物品等の優先的・積極的な調達等の推進など、障害のある人の就労支援に取り組んできました。
- 障害のある人の雇用の促進が図られていますが、本人の意思を尊重した働き方の困難さや、社会参加における移動支援などの課題があり、企業や地域における障害の特性に応じた配慮や支援が必要です。また、災害時に自らの避難行動や情報を得ることが難しい人に対する支援体制の充実が求められています。

4 計画の推進を通じてめざすもの

○ 基本的な考え方

本市における課題をふまえ、これまでの計画の理念を引き継ぎ、障害のある人もない人も誰もがその人らしく暮らすことのできる共生社会の実現をめざします。

○ 計画の目標

障害や障害のある人に対する正しい理解のもと、障害のある人が自らの意思決定を通じ、地域社会の一員として主体的に能力を発揮することができる地域づくりをめざします。

○ 基本的な視点と施策の展開方法

基本的な視点	施策の展開方向
I. 障害や障害のある人に対する理解の促進	1. 理解と交流の促進
	2. 差別や偏見のないまちづくり
II. 日常生活における相談や支援の充実	3. 相談支援と情報提供の充実
	4. 生活支援の充実
	5. 療育・教育の充実
III. 自立した地域生活への支援の充実	6. 安全、安心な生活環境の整備促進
	7. 社会参加と地域生活支援の充実
	8. 就労支援と日中活動の充実

5 今後のスケジュール

令和元年	8月	厚生委員会へ計画骨子の報告
	9～10月	帯広市健康生活支援審議会 障害者支援部会で計画原案の協議 帯広市地域自立支援協議会 障害者計画策定部会で計画原案の協議
	11月	厚生委員会へ原案の報告
	11～12月	計画原案に対するパブリックコメントの実施
令和2年	1月	帯広市健康生活支援審議会 障害者支援部会で計画案の協議
	2月	厚生委員会へ計画案の報告
	3月	成案

第三期帯広市障害者計画策定に向けたアンケート調査 集計結果（概要）

1. アンケート調査の概要

調査期間	平成30年11月8日～平成30年12月10日		
調査対象	1,000名（障害のない人：250名、障害のある人：750名）		
抽出方法	障害のない人：18歳以上80歳未満の障害のない市民より無作為抽出	・・・	250名
	障害のある人：身体障害者手帳を所持する80歳未満の市民より無作為抽出	・・・	300名
	障害当事者団体、相談支援事業所等の利用者から対象を抽出	・・・	445名
	特定疾病により障害福祉サービスを利用している者より抽出	・・・	5名
調査方法	調査票：調査対象別に調査票を作成（障害のない人向け調査票、障害のある人向け調査票）		
	配布：郵送又は当事者団体等による対象者への配布		
	回収：郵送又は持参		
回答結果	障害のない人：97件（38.8%）、障害のある人：371件（49.5%）合計：468件（46.8%）		

2. 主な回答結果

Q. 障害のある人に対する差別や偏見を感じることはありますか（共通の設問）

選択肢	障害のない人	障害のある人
あると思う	28.9%	25.3%
少しはあると思う	47.4%	40.4%
ないと思う	15.5%	17.8%
わからない	7.2%	10.8%
無回答	1.0%	5.7%

⇒ 障害のない人、障害のある人ともに、あると感じている割合が非常に高い。

Q. 障害者週間記念事業をご存知ですか（障害のない人向けの設問）

選択肢	回答
参加または会場に足を運んだことがある	1.0%
知っているが、参加または会場に足を運んだことはない	12.4%
偶然見かけたことがある	2.1%
全く知らない	84.5%

Q. 福祉のひろばをご存知ですか（障害のない人向けの設問）

選択肢	回答
利用したことがある	4.1%
どこにあるか知っているが、利用したことはない	10.3%
聞いたことがある程度で、利用したことはない	29.9%
全く知らない	55.7%

⇒ 障害や障害のある人への理解、啓発のための取組みについて、障害のない人の認知度は低い。

Q. 福祉に関する情報は十分に伝わっていますか（障害のない人向けの設問）

選択肢	回答
そう思う	4.1%
少し思う	9.3%
どちらともいえない	25.8%
やや不足している	12.4%
不足している	29.9%
わからない	16.5%
無回答	2.1%

⇒ 障害のない人には福祉に関する情報は十分に伝わっていないという回答が多く見られた。

Q. お住いの地域ではどの程度環境が整っていますか（共通の設問）

○ 道路や施設が安心で、外出しても事故やけがなどの心配がない

選択肢	障害のない人	障害のある人
そう思う	1.0%	18.6%
やや思う	8.2%	16.2%
どちらともいえない	17.5%	23.2%
あまり思わない	29.9%	14.3%
思わない	24.7%	15.6%
わからない	15.5%	8.4%
無回答	3.1%	3.8%

○ 災害が発生しても、安全に避難できる

選択肢	障害のない人	障害のある人
そう思う	4.1%	19.9%
やや思う	7.2%	17.5%
どちらともいえない	17.5%	16.7%
あまり思わない	15.5%	10.2%
思わない	37.1%	18.1%
わからない	16.5%	13.7%
無回答	2.1%	3.8%

⇒ 生活環境に関する質問では、障害のない人と障害のある人の回答に違いがあるものもあった。

Q. 災害が発生したときに避難ができますか（障害のある人向けの設問）

選択肢	身体障害	知的障害	精神障害
ひとりで避難できる	42.1%	25.0%	58.7%
家族が避難を手伝ってくれる	30.9%	45.0%	9.5%
近隣の住民が手伝ってくれる	2.3%	0.0%	7.9%
ヘルパーなどが手伝ってくれる	2.3%	13.8%	0.0%
避難することは難しい、できない	15.8%	16.3%	17.5%
無回答	6.6%	0.0%	6.3%

⇒ 身体障害のある人、知的障害のある人ともに、家族が避難を手伝う割合が高くなっている。

Q. 災害が発生したときに困ることは何ですか（障害のある人向けの設問）

（身体障害）

順位	選択肢	回答
1	避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	49.8%
2	投薬や治療が受けられない	33.6%
3	安全なところまで、すみやかに避難することができない	29.0%

（知的障害）

順位	選択肢	回答
1	避難場所などで周囲とコミュニケーションがとれない	53.8%
2	避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	33.8%
3	被害の状況、避難場所などの情報が入手できない	33.8%

（精神障害）

順位	選択肢	回答
1	投薬や治療が受けられない	41.3%
2	避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	36.5%
3	安全なところまで、すみやかに避難することができない	23.8%

⇒ 障害の種類によって、災害時に困ることが異なるため、特性に合わせた対応が必要。

Q. 障害のある人もない人も住みやすいまちにするため、帯広市が力を入れる必要があると思うものはどのようなことですか（共通の設問）

（障害のない人）

順位	選択肢	回答
1	障害のある人に配慮した住宅、建物、交通機関などの整備	44.3%
2	障害のある人やその家族への相談支援体制の充実	40.2%
3	障害のある子どもに対する教育の充実	37.1%
3	障害のある人や障害に関する理解の促進	37.1%
5	障害福祉サービスなどの充実	29.9%

（障害のある人）

順位	選択肢	回答
1	障害のある人に配慮した住宅、建物、交通機関などの整備	37.2%
2	障害福祉サービスなどの充実	36.1%
3	生活の安定のための手当てなどの充実	30.7%
4	障害のある人や障害に関する理解の促進	28.8%
5	障害のある人やその家族への相談支援体制の充実	28.3%

⇒ 障害のない人、障害のある人ともに、同じ項目が最多回答となった。バリアフリーや交通機関の充実が求められている。その他、障害福祉サービスなどの充実、相談支援体制の充実、理解の促進が共通して上位を占めている。

Q. 日常生活で意思疎通に困ることはありますか（障害のある人向けの設問）

選択肢	身体障害	知的障害	精神障害
よくある	8.5%	21.3%	7.9%
たまにある	19.7%	30.0%	20.6%
どちらともいえない	10.4%	13.8%	9.5%
あまりない	16.6%	8.8%	22.2%
ほとんどない	36.7%	17.5%	27.0%
わからない	4.2%	7.5%	7.9%
無回答	3.9%	1.3%	4.8%

Q. 自ら意思決定をすることができますか（障害のある人向けの設問）

選択肢	身体障害	知的障害	精神障害
ひとりでできる	42.5%	13.8%	42.9%
おおむねひとりでできる	24.7%	7.5%	27.0%
どちらともいえない	5.4%	10.0%	7.9%
内容によってはひとりでできないことがある	12.7%	40.0%	12.7%
ひとりですることはできない	7.7%	25.0%	3.2%
わからない	1.5%	1.3%	3.2%
無回答	5.4%	2.5%	3.2%

⇒ 知的障害のある人は、意思疎通及び意思決定が難しいと感じる割合が多い。

Q. 文化芸術活動、スポーツ、余暇活動などの活動を行っていますか（障害のある人向けの設問）

選択肢	回答
行っている	27.2%
行っていない	61.7%
無回答	11.1%

⇒ 活動していない人が6割超いる。